

保健だより

藤沢市立御所見小学校 保健室
保護者の皆様へ No.17 2020.12.1



感染症から差別や偏見が生まれる理由



差別・偏見をどうなくしていくか考えてみませんか

新型コロナウイルス感染症の感染予防対策として、学校を含めた日常生活にも、一部制限があったり、新しい工夫が求められたりする状況が続いています。

今までとは違う生活様式に変化する中で、感染症に対する不安や感染者などへの差別・偏見などが社会問題となっているのも事実です。

本校でも、感染予防対策を継続していきますが、感染拡大のニュースが続く今、新型コロナウイルス感染症は誰もがかかる可能性があることを前提に、身近な人が感染した場合を考慮した対応が必要となってきています。

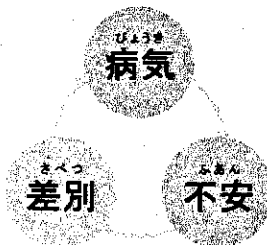
そこで今回、日本赤十字社監修の「新型コロナウイルスがもたらす3つの”感染症”」の考え方を紹介します。子どもたちにも伝えていきたいと思いますが、まずは大人から差別や偏見について考えていきませんか？



3つの“感染症”とは？

- ① “病気”そのものの感染症
- ② “不安”という気持ちの感染症
- ③ “差別・偏見”という意識の感染症

この3つの感染症が負のスパイラルとしてつながることで、さらなる感染拡大や、社会問題の深刻化へとつながっていきます。



Check

負のスパイラルを断ち切るためにできること

① ウイルスの感染をひろげないために…

まずは 手洗い・咳エチケットの徹底、3密を避け、自分自身の感染症予防を徹底しておこなう。

② 不安にふりまわされないために…

情報源のはっきりしないうわさ話はしない・広げないこと。

③ 差別や偏見をひろげないために…

言い出しにくい空気をつくらないこと。

発熱や体調不良を隠すことで、感染がさらに広がります。

人は目に見えないウイルスに対する不安やおそれを、目に見えるものにすりかえます。

感染症にかかった人や、特定の地域・職業の人など、実際に目に見える感染症を連想させる人や場所などを避けたり遠ざけたりする気持ちや行動が「差別や偏見」につながっています。

目では見えないウイルスに対する

不安やおそれ

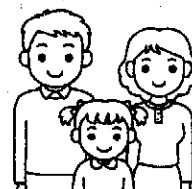


感染症にかかった人、その家族 地域や学校 を
“敵”とみなして 嫌悪の対象とする

嫌悪の対象を差別して遠ざけることで
つかの間の安心感を得る

新型コロナウイルス感染症を含め、感染症は誰でもかかる可能性があります。

たたかうべき相手は人ではなくウイルスです。感染症への正しい理解と思いやりの心で不安な気持ちを乗り越えていきたいです。



ご家庭でもご協力をお願いします。

例えば、新型コロナウイルス感染症のニュースを見ながら、

「東京から来ないでほしい」

「あそこの人、コロナになったらしいわよ。怖いよね。」

など、何気なく口にした言葉を子どもたちは聞いています。

大人たちの反応は、子どもたちの受け止め方に大きく影響します。学校でも継続して指導していきますが、ご家庭でも子どもたちが感染症への正しい理解のもとに適切に行動できるよう、力を合わせて感染症予防対策を行っていきましょう。

これからも、「保健だより」「えがお」で保健関係の情報をお伝えしていきます。是非、ご一読ください。今後とも、ご協力をよろしくお願いします。